

JBC 東京試合役員会会議(ZOOM 使用によるリモート会議)【議事録】

日時：2024年4月14日(日)午後8時～午後9時15分

主催：(執行部) 中村、岡庭、田畑、杉山

参加者：(コミッション) 片山、(試合役員) 小野、マーチン、山中、山本、岩本、飯田、須藤、小村、葛城、篠崎、ジョン、斎藤、寺山

<事前動画の配信>

- ・ 下記検証試合の編集動画について事前閲覧を要請。
- ・ 全国試合役員向けのみの限定公開 (4月5日～14日)
- ・ 「ローブローによるダウン」「ドクターチェック/ストップのタイミング」「目の腫れの推移」の3本

○連絡事項

- ・ 新任試合役員紹介 (山本・黒川)。
- ・ 穴口一輝、坂間叶夢両選手へ供花。
- ・ 新調ジャンパーの配布。

○前年度会計報告

- ・ 前任会計須藤氏より報告。

○試合検証

①WBO アジア・パシフィック タイトルマッチ 藤田健児 vs ジョセフ・アンボ戦 (2024年1月20日 担当レフェリー:中村)

<検証テーマ>アクシデントの対処(ローブローによるダウン)

※討議内容

【レフェリー】アクシデントにはタイムアウトをかけるのが基本中の基本。

【ルールの周知徹底】偶然のローブローは、休憩上限は5分。再開に応じない場合はTKO。

【チームプレーで対応】レフェリー・スーパーバイザー・タイムキーパー・リングアナウンサー・インスペクターの相互連携が重要。

【強硬な抗議の制止】セコンドがエプロンに上がると荒れた雰囲気。スーパーバイザー、インスペクターで制止する。

【リングアナウンサー】スーパーバイザー経由の指示を伝える。事実の案内が最大の仕事。

【レアケースの事例研究】レアケースに遭遇した際でも、冷静に対処できる。

②日本スーパーウェルター級タイトルマッチ 出田裕一 vs 小林柁貴戦 (2024年2月23日)

担当レフェリー:和如生ジョン)

<検証テーマ>負傷チェックとそのタイミング

※討議内容

【初動を早くする】ドクターチェック、ヒッティングカット/バッティングカットの指示は早めに。後々の作業手順を余裕が出る。

【説得力を持たせる】負傷判定は、ドクターチェックの

【タイトル戦のインターバル】ジャッジペーパーの回収作業は加わるので、すべきことは頭の中で整理しておく。

【ドクターの助言】ストップの重要な参考情報で、しっかりと活用。

【スーパーバイザーからのシグナル】気づかない点はレフェリーへシグナルを送る。

【全権限はレフェリーに】レフェリーの意思を明確に示す。

○その他要望・質問事項など

・当日審判の試合役員が、試合後採点表をすぐ閲覧できるように配慮してほしい。

<フォローアップ動画の配信>

・下記編集動画を閲覧し、検証ポイントの理解を深める。

・全国試合役員向けのための公開（4月14日～19日）

・「アクシデント～再開まで 流れをおさえる」「(椅子に座らせての休憩の)前提が崩れた。ではどう対処する?」「早めにアクションを取ることが大切」の3本

以上